

羽生田 だより

すべての人にやさしい 医療介を



令和6年11月発行

39号

羽生田たかし国会事務所
〒100-8962
東京都千代田区永田町2-1-1
参議院議員会館319号室
TEL:03-6550-0319 FAX:03-6551-0319

羽生田たかし群馬事務所
〒371-0022
群馬県前橋市千代田町2-10-13
TEL:027-289-8680 FAX:027-289-8681



沖縄県医師会 常任理事
玉城 研太郎



参議院議員
自民党厚生労働部会長代理
羽生田 俊



沖縄県医師会 会長
田名 毅

沖縄県という文化や歴史を受けた独特の地
私38歳の時に地元群馬県の前橋市医師会理事となりました。市医師会から県医師会を経て52歳で日本医師会常任理事となりました。当時としては、現在もかもしませんが、かなり若くして理事を経験した為、大変な苦労があったことも確かですが、その苦難も今ではとても良き思い出になっています。私の経験が少しでも参考になるのであれば嬉しく思います。

田名会長 先般の沖縄県医師会代議員総会にて選任され6月に沖縄県医師会会長を拝命いたしました。私は琉球大学医学科の4期生で、1990年に入局し、2001年には医局長として、初代の第三内科同門会会長も勤めさせて頂いています。

羽生田 今回は、全国最年少の58歳で都道府県医師会長に就任されました沖縄県医師会の田名毅会長と、その執行部を支える若きエースの玉城研太郎常任理事と意見交換の場を頂く事ができました。これから医師会を担っていく次世代についても過言ではない若い世代のお二人とお会いすることを大変楽しみにしております。



抱負として「若手、ベテラン、開業医、勤務医が団結し、問題解決にあたる『動ける医師会』を全国に先駆けてつくりたい」という思いがあります。

また地域医師会としての役割として「高齢化が進み増加する救急搬送などの諸課題に取り組み」という事が大きく取り上げられますが、そのためには現場の医療関係者としてしっかりとコミュニケーションを取り、具体的な課題を把握していく事が重要だと感じています。

次世代医師会の展望と挑戦 沖縄県医師会の未来を語る



紋別医師会にて



滋賀県医師会高橋会長・笠原先生と



岩内古宇郡医師会にて



上川北部医師会にて



寿都医師会にて



檜山医師会にて



北部檜山医師会にて



北広島医師会にて



石狩市医師会にて



千歳医師会にて



福岡県医師会運澤会長・横倉先生と



奈良県医師会安東会長と



加藤勝信先生と



近畿医師会連合会にて挨拶



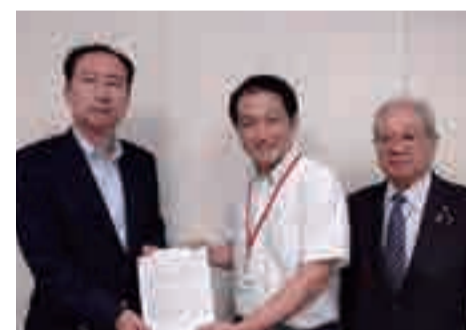
松本会長・自見はなこ先生と



釧路市医師会にて



小樽市医師会にて



日本側湾症学会渡辺先生と文科省へ要望



羊蹄医師会にて



恵庭市医師会にて



自民党国際保健戦略特別委員会にて



余市医師会にて



日本化薬株式会社医薬品製造工場視察

【羽生田たかし国会事務所】

〒100-8962
東京都千代田区永田町2-1-1
参議院議員会館319号室
TEL:03-6550-0319
FAX:03-6551-0319

【羽生田たかし群馬事務所】

〒371-0022
群馬県前橋市千代田町2-10-13
TEL:027-289-8680
FAX:027-289-8681

羽生田たかしオフィシャルサイト▶
<https://www.hanyuda-t.jp/>

Facebook 羽生田たかし 検索

公式アカウント▶@hanyuda_takashi
メール▶mail@takashi-hanyuda.com

WEB通信配信
アドレス登録は
こちらから



オフィシャルサイト



田名会長 羽生田先生の言われた存続が危ぶまれるような地域医師会は今このところ沖縄県内には存在していないので、話を聞いて驚いたのが実情であります。人口減少の影響というのはその様なことまで引き起こしているのだと再確認しました。沖縄は東西1000キロ・南北400キロという広大な医療圏を

沖縄県医師会の未来を見据えて

限られた医療資源でカバーする必要のあるという特徴があり、その為にもそれぞれの地域の医療現場の具体的な課題を把握する必要があります。会員の増強、医療DX、ICTの推進をはじめ病院長会議の活性化や会員として県民への広報活動なども重要な要素となります。また本島の機能拡充もさることながら離島医

療への対応も強化していかなければなりません。災害対策も重要な要素であります。そしてなにより沖縄には歴史・伝統を重んじながらも新しい文化を創り切り拓く、世代としての責任と使命を感じています。

会員相互がしっかりと繋がり、それぞれの地域を支えそして県全体の医療提供体制として質の向上、それがひいては県民の安心と健康に繋がる、そんな沖縄県医師会を目指して取り組むたいと考えています。

玉城常任理事 医師の働き方改革、医療DX、ICTの推進、産業保健や未来ある子ども支援対策、メンタルヘルス対策や災害医療対策等など、いま医師会に求められているのではない課題が山積して

います。日常診療で見えてくる現場の声を大切にしながらも有事・災害時・パンデミック対策などあらゆる事態を想定した備えも必要とされています。これだけの多くの事を抱えています。社会に利することであれば「できない」を前提に議論を進めるのではなく「出来るために何が必要か」という概念の元で一歩を踏み出し、明確なビジョンと明確なロードマップを田名会長の下、しっかりと作り上げ進めていきたいと思います。

羽生田 本場に先生方のような若い世代が、世代としての責任を感じて頂きたいです。田名会長、ありがとうございます。羽生田先生に繋いでください。



歴史と伝統を重んじるという言葉通り、いま私達はこれまでの医師会がどのような取組をしてきたのか、どのような考えの施策を進めてきたのか、しっかりと歴史を振り返りこれまでの検証を再確認しています。その上でい

て使命を感じ地域医療に取組、また医師会を守って頂いていることに感謝すると共に誇りに感じています。私が若くして医師会活動に参画した時、その様なビジョンがあったか自問自答させられますが「笑」ただ、地域をよくしたい、医療をよくしたい、そしてなによりこの地域の医療は自分が支えて行かなければという自負があった事は間違いありません。若き情熱を燃やし懸念の前に進む、そして医師として人として経験や研鑽を積み、お二人との話でゆくの世代へ繋いでゆく、次の世代へ繋いでゆく、

生のように人生を医師会に捧げたような、先輩から激励を頂き感謝しています。また本日伺ったこれまでの医師会の取組や先生の経験された事、大切なものを受け取った感じがしています。これまでの歴史も歩みも残していきながら私達の世代を担い、そして次の世代へ繋いでゆく責任と使命もひしひしと感じました。このような機会をありがとうございます。

羽生田 本場にありがとうございます。田名会長として玉城常任理事とこのような機会を頂けて幸せでした。先生方世代に医師会を安心して託す事ができると確信しました。先生方の思いをしっかりと刻んで頂きたいと感じました。



羽生田 俊

参議院議員(平成25年当選 2期目)
参議院厚生労働委員会理事
自民党厚生労働部会長代理
前厚生労働副大臣
元参議院厚生労働委員長

田名 毅

令和6年～沖縄県医師会 会長
令和4年～沖縄県医師会 副会長
平成30年～沖縄県医師会 常任理事
平成26年～沖縄県医師会 理事

玉城 研太郎

令和6年～沖縄県医師会 常任理事
平成30年～沖縄県医師会 理事

医療従事者不足と人材確保の課題

玉城常任理事 私は沖縄尚学高校卒業後に信州大学医学部へ進学し東北大学、アメリカ留学を経て沖縄に戻り、2016年那覇市医師会理事として2018年に沖縄県医師会理事となり現在に至ります。執行部の一員として田名会長の掲げる「県内の医療課題を解決する実行力のある医師会を築く」を目標に取り組んでいると

間。制限が現場に与える影響は少なく無いと考えます。特に私は外科でありますが、手術の回数や日程の制限・調整は必須となると感じて

います。これは働き方改革が単に時間の制約だけでなく、医師不足や医師の偏在の中において現場に今以上の人数確保が必要となる事や、また医療従事者養成や人材確保また診療科目の偏在など、多くの問題と絡み合っているからと考えています。

羽生田 いま私は全国を回っていますが、近年顕著に医師会の存

続・継続が危ぶまれている地域の話を知ることが増えてきました。人口減少社会が根本原因ではありませんが、医師偏在・医師不足、診療科の偏在そして医療者の高齢化のため、地域医療が成り立たないこと、医師会としての事業が継続出

来ない、ましてや収益が悪化しており解散も出来ないといった医師会もあるのも事実であります。地域医療を考える上で人口減少がもたらすものをしっかりと見据えていく必要が目の前に迫った時代がきているのだと感じています。医療職ではなくても病院内で働く外国人の方も多く見かけるようになりまし

た。多様な人材の活用そして、魅力ある働きやすい職場環境またその地域での生活や子育てな

りです。ど医療従事者自身のライフワークバランスなどこれからの時代にあつた環境として地域のあり方を、医療という視点だけでなく考えてゆく必要があるのだと感じています。いまこそ先生方のように地域医療を担いそして地域と共に生きてゆく覚悟をもつた若い世代が活躍するそして改革してゆく時なのだと感じています。